



平成 30 年 9 月 28 日

## 第 16 回 21 世紀出生児縦断調査(平成 13 年出生児)の結果

文部科学省では、「21 世紀出生児縦断調査(平成 13 年出生児)」の第 16 回(平成 29 年)の結果を取りまとめましたので公表します。

本調査は、厚生労働省が 2001 年(平成 13 年)から実施していた「21 世紀出生児縦断調査(平成 13 年出生児)」を今回の第 16 回(平成 29 年)から引継ぎ、文部科学省・厚生労働省の共管で実施しているものです。

調査時点での子供の年齢は 16 歳(高校 1 年生等)です。

### 1. 調査の概要

- (1) 調査対象：全国の 2001 年(平成 13 年)に出生した子供のうち、1 月 10 日～17 日の間に出生した子供及び 7 月 10 日～17 日の間に出生した子供を調査対象とする。  
(1 月生：15,245 人、7 月生：15,052 人)
- (2) 調査時期：平成 29 年 1 月 18 日(1 月生)  
平成 29 年 7 月 18 日(7 月生)

### 2. 調査結果のポイント

- (1) 子供自身の悩みや不安  
男女とも「進路に関すること」が最も高い。  
男子と比較して女子は「自分の容姿に関すること」「友達との関係に関すること(友達ができない・友達の輪に入れないなど)」の割合が高い。(11 頁)
- (2) 子供自身が考える将来  
男女とも「大学卒業後に働くことを考えている」が最も高い。「具体的にはまだ考えていない」は第 13 回調査以降減少し、第 16 回調査では男子 15.1%、女子 12.6%。(12 頁)
- (3) 進学を希望する分野  
男子は「理系学部・学科」が 43.7%で最も多く、女子は「文系学部・学科」が 41.5%で最も多い。(13 頁)

<担当> 生涯学習政策局政策課調査統計企画室

室長 今村 聡子(内線 3476)

室長補佐 船木 茂人(内線 3238)

縦断調査係長 山下 智子(内線 3251)

電話：03 - 5253 - 4111(代表)